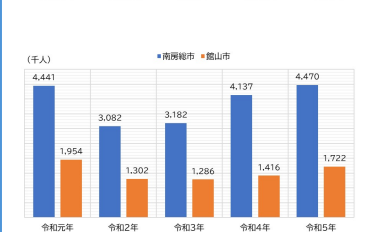
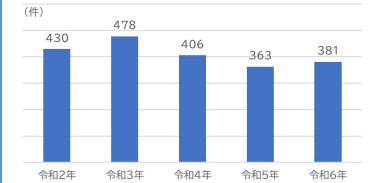
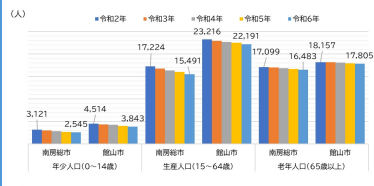


データで見るまちづくり

●地域の概況



●地域公共交通の現状

	概況
鉄道	JR内房線が運行されている。地域内に9駅存在（うち4駅が無人駅）
高速バス	4事業者（JRバス関東、日東交通、京成バス千葉イースト、京急バス）によって東京・新宿・千葉・横浜方面に運行中
路線バス	館山駅から放射状に8路線（館山市内線、丸線、館山鴨川線、白浜千倉館山線、豊房線、南房州本線、洲の崎線、館山市街地循環バス）が運行中
市営バス	南房総市で富浦線、富山線、北三原線の3路線（北三原線はスクール混乗路線）が運行中
チョイソコ	廃止されたバス路線である旧平群線、旧丸山線沿線を中心に実証運行中。旧平群線エリアは本格運行を開始
タクシー	地域内に4事業者
施設送迎	病院、宿泊施設、介護施設等が独自で送迎車両を運行
海上交通	「渚の駅」たてやまに高速ジェット船（季節運航）やクルーズ客船、観光遊覧船等が寄港

●上位・関連計画

第5次館山市総合計画（策定中）	●持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークの確保・維持 ●新たなシステムの導入等による利用しやすい公共交通の実現
館山市都市計画マスタープラン（改定中）	●広域的連携機能や地域間連携機能の強化 ●鉄道と路線バス等の連携や歩行系交通機能の強化
第2次南房総市総合計画	●高速バスの利便性向上 ●鉄道の機能維持 ●持続可能な地域公共交通の確立 ●公共交通拠点の機能強化

人口の推移

- 年少人口・生産人口・老年人口ともに減少傾向
- 3人に1人以上が高齢者となっている
- 今後も高齢化の進行や若年層の人口流出等によって、公共交通の収益悪化や税収の減少が懸念される

免許返納件数の推移

- 免許返納件数は近年減少傾向
- 公共交通が不便であるため自家用車の運転を余儀なくされている高齢者ドライバーが依然として多いといえる

観光の現状

- コロナ禍以降は南房総市・館山市ともに入込観光客数の増加傾向が続いている

現計画の評価

●取組の進捗状況

取組項目	取組状況	取組項目	取組状況
①市内線の見直し	済	⑯安房白浜駅の更なる利用促進・活性化のための機能強化	済
②南房州本線の確保・維持	済	⑰三芳分庁舎の整備	済
③館山鴨川線の確保・維持	済	⑱集客施設や道の駅等の整備	済
④白浜千倉館山線の見直し	済	⑲観光産業と連携した交通体系の構築	未
⑤豊房線の見直し	済	⑳サイクルツーリズムとの連携	未
⑥丸線・平群線の見直し	済	㉑企画乗車券やICT活用による利便性向上	済
⑦官民連携による利用促進策の展開	未	㉒効果的な情報発信による利用促進	未
⑧内房線ならではのコンテンツの展開・PR	済	㉓フィーダー交通・補完交通の活用促進	済
⑨JR東日本と市民や高校生との連携による駅の美化活動等の展開	済	㉔新たな移動システムの導入検討	済
⑩無人駅（那古船形駅、和田浦駅等）の利活用	済	㉕多様な地域輸送資源の活用によるラストワンマイル対策	済
⑪利用ニーズを踏まえた利用環境の改善	済	㉖ICカードの導入検討	済
⑫利便性向上策の検討	済	㉗地域版MaaS（アナログMaaS）の取組み	済
⑬情報発信の強化	済	㉘公共交通に関する情報の「見える化」推進	済
⑭貨客混載事業	済	㉙モビリティ・マネジメントの取組み	済
⑮館山駅前広場の再整備による安全で分かりやすい環境の創出	未		

●評価指標の達成状況

評価指標	目標値(R7)	R6年度	達成状況
①地域間幹線系統バス路線の年間利用者数（千人）	265	208	未
②地域間幹線系統の収支率（鉄道は除く）	62.0%	52.7%	未
③圏域内バス路線の年間利用者数（千人）	347	268	未
④地域内路線の収支率（洲の崎線は除く）	27.5%	24.4%	未
⑤地域内バス路線における2市の補助金（千円）	79,851	99,394	未
⑥1日あたりの鉄道駅利用者数（有人駅）(人/日)	2,955	2,511	未
⑦高速バスの年間利用者数（千人）	913	813	未
⑧交通結節点の整備・機能強化箇所数（バス待ち環境整備等）	5	—	未
⑨道の駅等の主要観光施設の年間観光入込客数（千人）	7,101	6,145	未
⑩市民アンケート調査における公共交通利用に困っている人の割合（％）	5.0%未満	10.4%	未
⑪運転免許返納件数（件）	700	381	未

南房総・館山地域公共交通の課題

- ①高齢者（買い物・通院）や通学利用者の移動手段の確保
- ②地域の実情に応じた新たな交通手段の横展開
- ③一次交通と二次交通の接続利便性の向上
- ④公共交通における利用意識の醸成
- ⑤移住定住促進や交流人口の拡大に向けた来訪者等の二次交通の整備

●クロスセクター分析

公共交通が存在することによる、他部門（福祉・教育等）の費用節減効果について、本地域の人口規模や特性を加味し、参考文献等を用いて算出する。
(現在分析中)

地域公共交通事業者の状況

資料作成：ランドブレイン株式会社

●住民アンケート

圏内公共交通の利用状況

- 日常生活における外出時の交通手段としては、自家用車利用が**7割以上**を占めており、公共交通の利用は**約1割**に留まっている
- 外出時の困りごとについて、困ることがあると回答した割合は**10.4%**となっており、主に10歳と80歳以上の世代で比較的多くみられる
- 困る際の対応としては「不便だが、やむを得ず路線バスや鉄道を利用する」との回答が**46.0%**と最も多くなっている一方で、「外出をあきらめる」との回答も**16.2%**と一定数存在している
- 日常生活に占める公共交通の利用割合自体は少ないものの、自家用車をもたない世代には交通手段の不足によって外出をあきらめる方も一定数いることから、公共交通に対する潜在需要は一定数存在するといえる

公共交通の維持・確保について

- 「現在と同程度の財政負担を維持したまま、運行の効率化や見直しを行いサービスの向上を図るべき」が**36.5%**と最も多く、次いで「チョイソコ南房総・館山を南房総市・館山市の全域で実施させるべき」が**31.4%**となっている
- チョイソコ等の新たな交通手段を活用することで、現状の財政負担額を維持しつつサービス向上を図ることが望まれているといえる

公共交通の今後のあり方について

- 「バス停以外でも乗り降りが可能な“フリー乗降制度”の導入」が**38.6%**と最も多く、次いで「増便や運行時間帯の拡大」**22.6%**、「行きたい場所を通る路線」が**20.7%**となっている
- より利用者の出発地・目的地に近い場所から乗降車できるような、きめ細やかな交通需要への対応が望まれているといえる

チョイソコの運行について

- チョイソコ登録者のうち**38.0%**の方が運転免許をもっておらず、このうち**0.7%**の方が「チョイソコの運行開始により免許を返納した」と回答
- チョイソコ登録者のうち**12.5%**がチョイソコの運行開始によって「外出回数が増えた」と回答
- チョイソコの運行開始によって、自家用車の運転に不安を抱える高齢者の免許返納の促進や、交通不便地域の住民に対する交通サービスの向上に一定の効果があったといえる

●交通事業者ヒアリング（実施予定）

目的

南房総・館山地域で公共交通を運行している交通事業者や関連事業者に対し、公共交通の現状・課題及び将来の見通し等についてヒアリング調査を実施し、本計画へ反映する。

実施時期

9月～10月に実施

●住民ワークショップ（実施予定）

対象

- 各種調査から公共交通の課題の優先度が高い地区（4～6地区程度）を抽出
- 高校生、子育て世代、高齢者等幅広い年代が対象

実施回数

各地区で1回の開催を予定（150分程度）

内容

地区別カルテを活用し、以下のテーマで意見交換を行う。
テーマ ① 日常生活における移動等の問題点
テーマ② 問題点をクリアするためにどんな解決方法が考えられるか
テーマ③ 公共交通を維持するために、地域・自分たちができること

実施時期

9月～10月に実施

【基本理念】地域住民の外出行動を促進し、地区ごとの特性に応じた活性化を図る公共交通ネットワークの実現

地域公共交通を取り巻く課題

①高齢者（買い物・通院）や通学利用者の移動手段の確保

②地域の実情に応じた新たな交通手段の横展開

③一次交通と二次交通の接続利便性の向上

④公共交通における利用意識の醸成

⑤移住定住促進や交流人口の拡大に向けた来訪者等の二次交通の整備

基本方針

①公共交通の相互連携及び機能分担による地区ごとの特性に応じた最適な交通環境の提供

②将来にわたり持続可能で“コンパクト・プラス・ネットワーク”を支える交通軸の形成

③新たな公共交通サービスの横展開による公共交通不便地域への対応

④観光や商業等、まちづくりにおける他分野との連携

⑤地域住民にも来訪者にもわかりやすい一元的な運行情報の発信による利用促進

地域公共交通計画の目標

検討中（５個程度を想定）